長洲町立長洲小学校　校長便り　№１４７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年1月15日(月)

【愛語録】「頑張ってる人は見えないところで努力している。 いつも笑ってる人は見えないところで泣いている。
優しい人は見えないところで我慢している。 そんな人になりたいな。」　（野原ひろし：マンガ「クレヨンしんちゃん」より）

卒業前雑感「親」

思春期の入り口にある６年生ですが、これからの数年間で見違えるような精神的な成長を遂げるのも、この時期の特徴です。親子関係も変化があります。私はだんだん父のことがけむたくなり、母には話をしたいのですが何となく照れくさくて、特に友達の前では「あっち行って…。」と邪けんな態度をとったりしていました。この時期当たり前といえば当たり前なのですが、このようにして、世の親や子は親離れ子離れを成し遂げていくのです。

親は、子供の近くにいてすぐに手を差し伸べるという存在から、少し離れて子供の成長を見守る存在になります。この際、子供を信じるということがキーワードですが、最近は信じてばかりでは思わぬ落とし穴にはまることもしばしばですから、「うちの子に限って」ではなく、「もしかしたら…？」という視点で子供達を見ることも必要になってくるかもしれません。しかし、つい気になって子供の生活の一部始終を知りたくなる気持ちも分かりますが、いつまでも親が入りすぎると、成長を妨げることになります。個人差はありますが、助言を求められたら積極的に相談にのり、それ以外のときは「最近どぉ？」と尋ねるくらいにしておいた方がいいかもしれません。子供は子供なりに葛藤していますから尚更です。

卒業前雑感「苦手」

私が中学時代苦手だった教科は、実は国語です。読解力はそこそこあったと思うのですが、どうしても点数は低かったです。後に国語に関しては努力するきっかけとなった訳ですが、他教科はといえば、数学はコンスタントに？低い点数でした。苦手意識が国語と数学にあった訳です。国語と数学の苦手克服は、今思っても大変です。一夜漬けで点数の取れるような教科ではありません。日々の努力が必要です。だからこそ家庭学習が重要なのです。

全国的には苦手意識が高い教科は何だと思いますか。それは英語です。苦手教科に挙げられた理由は色々考えられますが、その一つとしてローマ字の習得ができていないということが挙げられます。しかし逆にいえば、この時期、英語を得意教科にしてしまえば、後は順調に進むことは珍しくありません。英語は中一の前半での授業理解と学習法のマスターが大切な教科といえるのです。

私は最近、英語の必要性について身に詰まされています。海外の仲間とのメールのやり取りに必要だからです。「もうひし頑張っておけばよかったかなぁ…。」と真剣に思います。グローバル化が急速に進む現代において、英語は必要不可欠なツールになります。更に職業そのものが変化していく時代です。対応するために必要な知識技能を身に付ける必要があります。

シリーズ「自分を語る」＃１４７

学校の中で起こる問題において、事が起きてからの事後対応及び突発的な問題対応はかなりのエネルギーを使います。それ故、よくこんな言葉が使われていますね、「報連相」。ことが大きくなる前に報告、連絡、相談をすることが大切だということです。更に、問題未然防止型の指導をすることが重要だと考えるようになりました。担任教師時代に無意識にそういう指導をしてきていましたが、教頭として学校全体を見るようになってから、問題未然防止型の指導が重要だと切に感じるようになりました。問題が起きないようにするためにどうしたらいいか？　先ずは児童保護者との信頼関係づくりです。学級では授業きない価値基準のもと自治が機能する集団づくりと、保護者の皆様とは子供達一人一人をチームとしてまた、同じ視点に立ち、協働で見守っていくという支援者としての組織作りが重要です。これができなければ、学級や学校は果てしなく崩れることになり、負のスパイラルが続くことになります。それ故、４月は重要な時期と言えます。この時期、学校だけでなく企業や官庁、友達同士…、多くの集団において「自分を変えよう！」「心機一転！」という気持ちになっていますから、この時期の集団形成はとても重要です。

そんなことをよく考えるようになった平成２９年度でしたが、新しいことを何かしようというと、中々一歩が踏み出せませんでした。しかし、その突破口はポ～ッとしている時間に結構思いつくものです。当時の荒尾第一小学校は、目指す学びの形である「主体的協働的で深い学び」の深い学びをどの様に捉えるという指導していくのか、どのような学びのスタイルを子供達に提供していくのかが任務でした。そこで、私が考え付いたのが、先進校との交流でした。これには後日談もあるので詳しくはお話しませんが、私を含め４名の職員が自費で先進校との視察交流を行いました。この研修において、当時進めていたスタイルは、未来志向型の学びのスタイルであり、次期学習指導要領とも合致している先進的な取組であると自信が持てるようになりました。とは言え、課題が山積しているということにも気付かされた研修でした。何より、深い学びにはそれに対応する「語彙」が必要です。難しい文章を読むときには難しい言葉の意味を知っていなければ意味の理解ができませんよね。私は今でも本を読む時に辞書やパソコン、スマホを近くに置いておきます。意味が解らない言葉が出てきたときにすぐに調べるためです。放っておくと語彙量の増加に繋がりません。私の年齢でも語彙を増やす必要性に駆られているのですから、小学生であれば尚更です。是非、辞書を手元に置いておくようにしてください。

また話が反れてきました。平成２９年度、少しだけ事務処理のスピードが上がった私は、出来るだけ愚痴を言わずに、業務を複線化し、少しだけ要領良く仕事を進め、自分自身の働き方改革を進めようとぼんやり考えるようになりました。最近よく思います。何だかんだ言って「すぐやる人」が伸びると。実は私自身、嫌な仕事を先送りし、ギリギリになってやり始めてミスをすることが多くありました。「言われた仕事はすぐにやる！」これは、最近確信に変わりつつある、私のスタンダードです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）